

## 食品関連事業者における業種別の再生利用等の実施状況

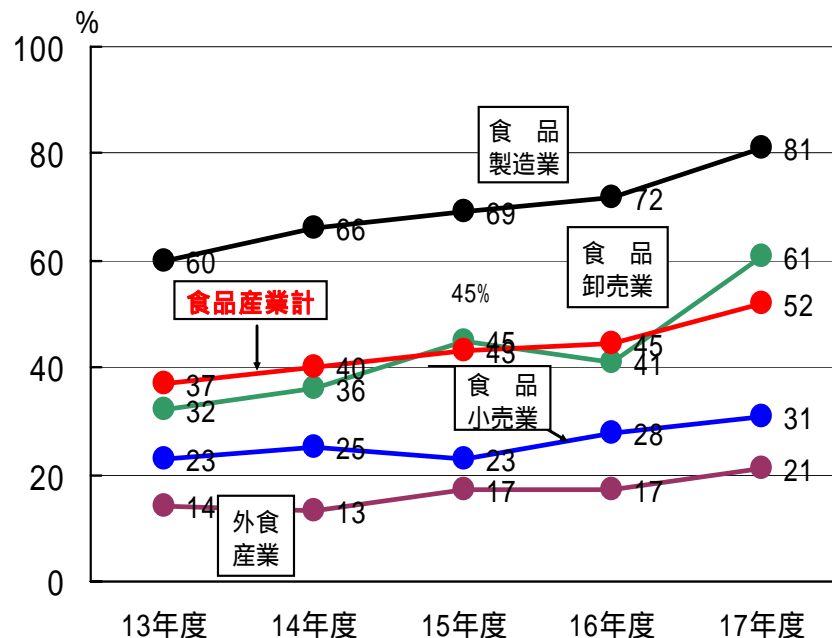
食品廃棄物等の発生量が微増または横這い傾向で推移する中で、平成13年度から平成17年度までの間の食品循環資源の再生利用等実施率は、食品産業全体で着実に向上しており、一定の成果が見られる。

食品関連事業者の業種別に再生利用等の実施状況を見ると、とりわけ食品製造業が高い実績を上げており、食品産業全体の再生利用等実施率の向上に貢献している。

しかし、卸、小売、外食と食品流通の川下に至るほど、再生利用等実施率は低下していく。

これは、川下の業種ほど廃棄物発生形態が少量分散型になることに加え、均質性の低下や異物混入の可能性が高まることから、再生利用しづらい条件になっているためと考えられる。

食品循環資源の再生利用等実施率の推移



食品廃棄物等の発生量の例 (平成16年度)

企業名	業種	事業場数	1事業場当たり (t)	総発生量 (t)
アサヒ飲料(株)	食品製造業	4	2,295	9,180
キューピー(株) (平成14年度)		8	1,000	8,000
伊藤ハム(株)		9	332	2,991
(株)カスミ	食品小売業	114	50.1	5,716
(株)セブン-イレブン・ジャパン (東京23区のみ)		844	5.4	4,558
ワタミ(株)	外食産業	407	9.3	3,785
(株)吉野家ディ・アンド・シー		1,016	2.6	2,689

資料：「食品循環資源の再生利用等実態調査報告」(農林水産省統計部)により計算

各企業のHP、環境報告書等をもとに作成